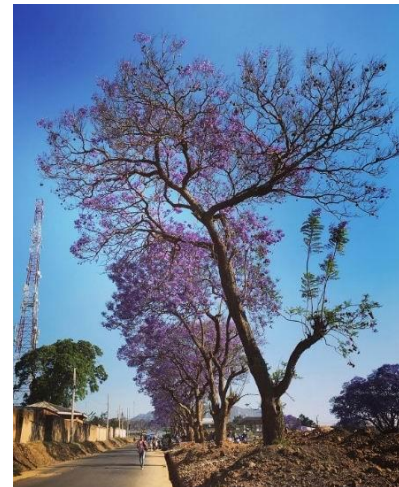


キャン ドウ

# CanDo アフリカ

特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会(CanDo)会報 2022年12月[第100号]



活動の方向性 **ライフ・スキル教育を基盤とした学校保健の活動育成** 永岡 宏昌  
ボランティア便り **雨季が始まりました** 永岡 宏昌

報告 **12月、最初の教室が完成**  
**—教室建設の対象校9校の現況**



報告 **マラウイでの活動—2022年9月～11月—**

フォト・レポート **マラウイの日常～インスタグラムの写真から～** 宇野 由起信  
事務局から



写真の左上は、アフリカの「サクラ」=ジャカランダの並木道／右上は、ひょうたんで作ったひしゃくを売る人／左下は、食用となるウサギ(以上、「マラウイの日常～インスタグラムの写真から～」)  
中段左は、完成した1教室目の教室の背面／前面

## ライフ・スキル教育を基盤とした学校保健の活動形成

代表理事 永岡 宏昌

ライフ・スキルは、日常生活の中で生じるさまざまな問題や要求に対して、個々人が効果的に対処できるようになる能力—マラウイ教育省はそのように定義しています。ライフ・スキル教育は初等教育の2年生から8年生までの主要科目で、各学年で毎週数コマの授業が行なわれています。子どもが授業のアクティビティをとおして学ぶ、子ども中心の学習形態になっています。マラウイで子どもを含む住民が、日常生活で直面するさまざまな課題を論理的に学び、それらに対して予防的・受動的にも、平和的・能動的にも、対処する能力を身につけることが意図されています。自分への理解・自尊心と誘惑されない力、他者への理解と説得する力、平和的な対立の解消、批判的思考力や創造的思考力を育むことなどを目指しています。

ライフ・スキル教育が始まったきっかけは、1990年代のエイズ危機です。薬剤がない中で、多くの陽性者と亡くなる人がでて、社会がパニックになっていました。その対処として1996年に試験導入されました。その後、主要科目に発展してきた経緯があります。エイズについては、疾病メカニズムやHIV感染予防だけでなく、治療や陽性者へのケア、陽性者の人権の尊重や共生など多面的に扱われています。そのほか、日常生活での子ども

の健康・安全に関わる課題として、衛生習慣作り、食と水の安全と栄養、公衆衛生、身体と心の発達、思春期の特徴、感染症(特にマラリア)、性感染症などが扱われています。

当会は2022年12月まで1教育区で試験的に学校保健を実施してきました。2023年2月に終了する教室建設事業の次に、新たな学校保健の活動形成を検討しています。初等学校の保護者が、子どもの健康、衛生、保護、性交渉・妊娠予防などに広い知識と視野をもつために、子どもの健康と安全を保障する活動を日常的に展開する父母リーダーを育成します。その基盤として、ライフ・スキル教育に着目しています。知識とともに、父母リーダーが教科書のアクティビティを利用して、課題を納得し、他者への理解を深めて、説得する力を養うことに取り組みます。そして、父母リーダーから一般保護者へ、ライフ・スキル教育を活用して課題の理解につなげる質の高い学習会の形成に取り組みます。

また、教員へも、ライフ・スキル教育の教授法研修を行なって、質の向上を目指します。このように父母リーダーと教員が共通のライフ・スキル教育をとおし、子どもの教育と健康・安全に関する知識・視点を深めることによって、子どもへの共同の働きかけを形成しようと考えています。

## プランタイヤ便り

### 雨季が始まりました

永岡 宏昌

事業地のパロンベ県では11月初旬に雨が降り始めました。時々、午後の短い時間に雷と豪雨があります。畑の準備が始まりました。くわを使って、山型の畝を立てていきます。機械も家畜も用いない手作業です。

11月30日、朝から夕方までこれまでにない大雨が降りました。一斉に羽アリ\*が飛び、県内でメイズ(白トウモロコシ)など穀物の種まきが始まりました。くわで畝の上部に穴を掘って、一粒ずつ落として、土をかけます。収穫するメイズは1年間の家族の食料となります。ひとり400kgを食べるそうです。羽アリは食料として採集していました。

以前、この時期には支給された「補助金クーポン」を持った多くの住民が、自転車ですべて集まってきました。大型トラックで運ばれてきた肥料とメイズ種子を買っていました。今年は集まっていないようにみえるので、スタッフに聞いてみたところ、クーポンの支給はなくなっていました。補助を受けたい人は村長に要望を出して、村長はそのリストを国に提出。補助対象者として名前と国民カード番号が登録されるのは半数くらいで、村長が集会で対象者名を読み上げる形で知らされている、とのこと。対象となった住民が国民カードを持って町の配給倉庫に行き、市場価格の約4分の1の値段で、NPK(窒素・リン酸・

カリ)肥料と尿素肥料を1袋ずつとメイズのハイブリッド種子を購入。市場価格は一般住民にはとても買えない金額で、肥料を本当は1家族で使いたいところを、近隣の住民と費用を分担して分けて使うそうです。

国からの補助金付き肥料の供給が追い付かず、12月16日の時点で補助対象者で肥料を買っていない住民が大変多い状況だそうです。12月初めに播いて発芽したメイズにNPK肥料を入れる時期なので、多くの住民は施肥の機会を逃しているとのこと。マラウイの経済状況が非常に悪く、外貨が不足していることが原因で、十分な肥料が輸入できないようです。

種子会社が作って販売するハイブリッド種は高収量が期待されますが、政府の調査によると、パロンベ県では作付けるメイズのうち32%。そのほかは前年に収穫して家で保存している種子や、近隣の住民の間で融通する種子だそうです。

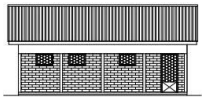
このような状況でも住民の間に大きな怒りが充満しているようにもみえません。さまざまな困難な状況に適応して生活することに慣れているのでしょうか。しかし、1日に3食を食べることができる家庭は20.5%に過ぎない、貧困な地域が抱える課題は深刻です。

\*シロアリが生殖虫となって巢外へ出てきたもの。

## 12月、最初の教室が完成 —教室建設の対象校9校の現況（2022年12月15日）—

外務省日本NGO連携無償資金協力「パロンベ県初等学校保護者による教室建設事業」

第1年次 2021年2月10日～2022年2月9日  
第2年次 2022年2月10日～2023年2月9日



### 教室建設の工程

①1 教室に必要な土壌安定化レンガ(SSB) 9,000個を作成

第1年次に4校で完了。最初の2校は教室棟(2教室と2小部屋)、次の2校は1教室の建設に進む。第2年次は5校で継続。

②教室の基礎・床を建設

位置決め／溝掘り／鉄筋組み／基礎底部コンクリート固め／基礎壁建設／基礎壁を埋設／床設置

③1 教室の学校での壁・屋根までを完成

—教室棟の学校では1教室目—

壁建設(ドア・窓部分は開口)／足場建設／ドア・窓設置／リングビーム鉄筋組み／リングビームコンクリート固め／上部壁・妻壁建設／木材で屋根構造作成／屋根設置

④教室棟の学校で2教室目の壁・屋根までを完成

### ■ 教室棟

#### ◆ クランベ校

①完了：2021/7/1(教室棟に必要な18,900個のうち9,900個は建設と並行して作成\*)

②実施期間：2021/11/22～2022/4/29

③1 教室目は、屋根の設置まで完了。2 教室目のドア・窓の開口部までの壁の建設が完了し、リングビーム(壁の上部を口の字に鉄筋を配して、コンクリートで固定)の準備を行なっています。

○先行事業(2019/1/28～2020/3/31)の建設リーダーと、この事業の第1年次に研修を修了したリーダーが継続的に建設活動を担い、出納係の在庫管理がよくできています。

#### ◆ リングニ校

①2021/7/20 (\*と同様)

②2021/11/29～2022/5/30

③1 教室目は、リングビームまで完了。木材を組ませる屋根の構造を作成し、並行して屋根の準備を行なっています。2 教室目は、リングビームの準備中。

○先行事業からの建設リーダーが少人数ですが、継続的に建設活動を担い、出納係の在庫管理がよくできています。

### ■ 1 教室

#### ◆ ゼンジェ校

①2021/10/19 ②2021/11/29～2022/5/30

③リングビームの上の妻壁(三角の壁)まで完了。屋根の設置にかかっています。

○活動が順調に進む時期と中断する時期がありました。粘り強く継続しています。

#### ◆ ミンガンボ校

①2021/12/9 ②2021/12/30～2022/6/14

③安定した地盤が深く、基礎壁で計画より多量のSSBを使用したため、壁の建設作業を中断。追加のSSBを作成して11月に再開。リングビームの作成の準備をしています。

○協力する村としない村との関係の調整、校長や学校委員の入れ替えで活動が停滞しましたが、教育官やチーフの介入等で継続しています。

#### ◆ チトコロ校

①2022/2/4 ②2022/2/23～6/6

③一番早く、教室がほぼ完成しました。

○先行事業での建設リーダー数で対象校では補欠で、事業開始時期は9校で最後でした。けれども、基本SSB作成から教室建設まで停滞することなく、活動が進みました。先行事業からの建設リーダーが少人数ですが、継続的に建設活動を担いました。

### ■ 小さな規模の教室

①作成ができない3校については、2022年10月、小規模の教室建設に変更しました。

#### ◆ ナゾンベ校

①6,995個作成 ②2022/10/22～11/17

③屋根の設置準備にかかっています。

○SSB作成の停滞は深刻でしたが、建設を開始してから順調に作業が進んでいます。

#### ◆ バーニ校

①6,451個作成 ②床の設置中。

○建設リーダーと参加する保護者はほとんど女性。粘り強く作業を継続しています。

### ■ 途中終了

2校はSSBの作成が深刻に停滞し、活動継続について関係者の合意に至らずに終了。

#### ◆ ミレメ校

①599個作成(中間目標4,000個も未達成)

○5月17日に終了。

#### ◆ パサ校

①5,500個作成

○校長とチーフが小規模建設を希望していましたが、建設リーダーと保護者・村人は希望せず、10月28日に保護者総会で途中終了が要請されました。

## ■パロンベ県

## 保護者参加による教室建設

## □9月

教室棟建設のクランベ校の1つ目の教室と1教室建設のチトコロ校では上部壁・妻壁建設が完了、屋根構造を作成。教室棟のリングニ校では1つ目の教室のドアと窓の設置が完了。1教室のゼンジェ校ではリングビームのコンクリート固め準備作業。1教室のミンガンボ校では追加のSSB製作中。9000個の土壌安定化レンガ(SSB)の製作が完了していないパサ校は、約5000個のSSBを活用して小規模教室の建設を校長やチーフが希望。代替案を作成し、外務省に変更申請を提出。小規模教室にナゾンベ校は合意、バーニ校では合意形成中。在マラウイ日本大使館専門調査員が事業の進捗状況を観察。

## □10月

クランベ校では1つ目の教室の屋根を設置、2つ目の教室の壁建設。リングニ校では1つ目の教室のリングビームのコンクリート固めが完了、2つ目の教室の壁建設。チトコロ校では屋根の設置まで完了。ゼンジェ校ではリングビームのコンクリート固めが完了。SSBが不足し、追加の作成中。ミンガンボ校では関係者と協議。パサ校では小規模建設を建設リーダー、保護者らは希望せず、保護者総

会で途中終了の要請。小規模建設に関する変更申請が承認され、ナゾンベ校は建設を開始し、基礎の溝掘りが完了。バーニ校は活動計画を策定し、砂の収集を開始しました。

## □11月

クランベ校では2つ目の教室の壁建設まで完了。リングニ校では1つ目の教室の屋根構造作成、2つ目の教室の壁建設まで完了。チトコロ校では教室がほぼ完成しました。ゼンジェ校は屋根の設置と妻壁建設。ミンガンボ校は屋根構造を作成。パサ校は途中終了手続き中。ナゾンベ校では壁建設が完了。バーニ校では基礎底部のコンクリート固め。

## ■パロンベ県ムロンバ教育区

## 学校保健

## □9月

2校で保健リーダーの学習会開催。保健局との協働が難しいことを県知事に報告し、教育局を主で合意。教育官とライフ・スキル教科書と教員ガイドの供与、研修について協議。

## □10月

ライフ・スキル教科書の内容を分析して、大会が実施した研修手順書との関連付け。

## □11月

教科書を使用したHIV/エイズ学習会実演手順書を作成。教育官と、研修日程や研修で実演するテーマについて合意しました。

## フォト・レポート

## マラウイの日常～インスタグラムの写真から～

アカウント名: yukinobu\_uno

宇野 由起信



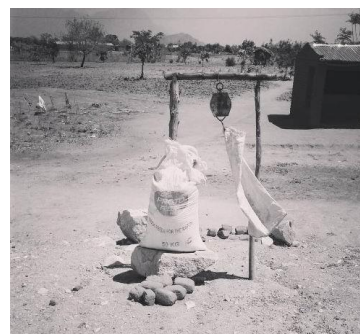
日曜の朝と月曜の朝



霧雨煙る日の浴槽とアヒル



タピオカ・ミルクティー in Malawi はいかが



メイズ(白トウモロコシ)の量り売り



たいていの物は頭に乘せて運べます



使われるところをみることがない公衆電話



しぶとく生きてます

## 事務局から

### 報告

#### ◇組織

○10月、第5回 CanDo 預託金の募集(継続の打診)を開始しました。預託期間は3年間。

#### ◇国内活動

○9月、ウェブサイトを更新しました。  
○10月1日、2日、東京・国際フォーラムをリアル会場として開催された、グローバルフェスタ JAPAN2022 に出展。教室の模型と写真・説明パネルで活動を紹介しました。



### 人の動き

○10月8日、調整員 宇野由起信をマラウイに再派遣。

○12月11日、代表理事 永岡宏昌がマラウイから帰国。

### お知らせ

■12月23日～2023年1月12日

台東区地域活動団体パネル展に出展  
台東区生涯学習センター1階アトリウム  
(東京都台東区西浅草 3-25-16)

問い合わせは、社会福祉法人台東区社会福祉協議会 台東ボランティア・地域活動サポートセンター TEL 03-3847-7065 まで。

■次号は2023年3月に発行の予定です。

■当会は、2023年1月1日で設立25周年を迎えます。『CanDo25年の歩み』を発行する予定です。

#### CanDo アフリカ [第100号]

2022年12月22日発行

発行人: 永岡宏昌 編集人: 佐久間典子  
発行: 特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会 (CanDo)  
〒110-0001 東京都台東区谷中2-9-14 第2森川ビル B号室  
電話: 03-3822-1041  
電子メール: [tokyo@cando.or.jp](mailto:tokyo@cando.or.jp)  
ウェブサイト: <http://www.cando.or.jp/>  
facebook page: <http://www.facebook.com/candoafrica>  
郵便振替: 口座番号 00150-2-15129 加入者名 アフリカ地域開発市民の会